

Common Sense Press

vol.016

Aug.2015

本稿は2015年7月24日、赤坂ロータリークラブでの講演をもとに作成しました。

東京赤坂ロータリークラブにお招きいただきまして、大変光栄に存じます。

私は約25年間、政治の場で活動して参りました。1990年2月18日投開票の衆院総選挙で初当選して政治家になったわけですが、政治家になって何を考えてきたか、あるいはこの25年を総括したテーマでお話したいと思います。

私は高校を卒業して東京に出て参りました。もう、50年になります。18歳までのことを横に置くと、18歳から約25年間は、学生、2年間の司法研修所を経て、約19年間弁護士をやりました。その後、25年間は政治家としての生活になります。

初当選した1990年とはどういう年だったのか。25年経って、今から改めて振り返ってみますと、日本においては1989年に昭和天皇が崩御され、年号が「昭和」から「平成」に変わりました。また、社会党の土井たか子さんの「おたかさんブーム」で「山が動いた」、自民党が大敗を喫した参議院選挙が行われました。中国では天安門事件、ヨーロッパではベルリンの壁の崩壊、イラクのクエート侵攻も1990年でした。いよいよグローバリゼーションが始まった年ともいえます。

1945年から1989年までの冷戦構造といましようか、「パクス・アメリカーナ」、つまりアメリカとソ連の二極覇権体制が1989年、90年、91年を境にして、明らかに崩壊し変わらざるをえなかった年でした。ご承知のようにソ連邦が完璧に解体したのも1991年です。他方、日本は年号が「平成」に変わりました

が、バブルが崩壊し、そこから「失われた20年」が始まります。いわばバブルで大変な不良債権を作ってしまった供給サイドが調整過程に入り、その調整に20年、あるいは20数年かかったというのが偽らざる事実です。

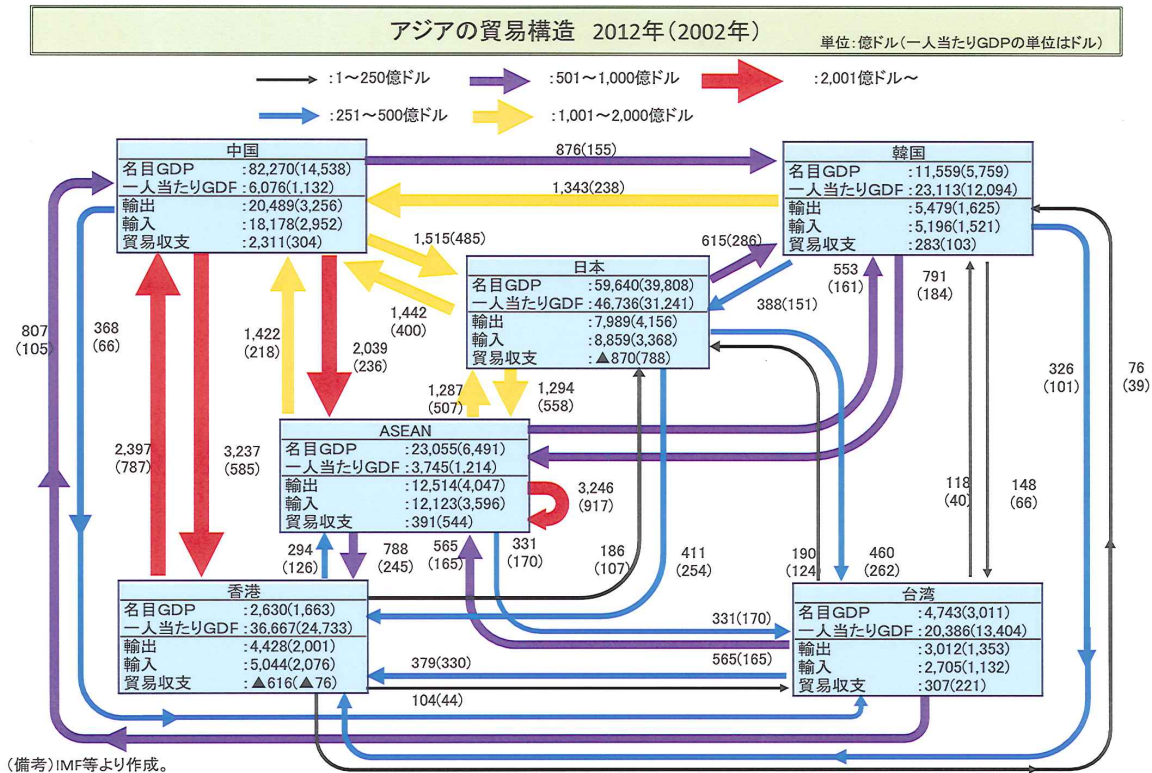
●きれい・かわいい・気持ちいい

今日は、「こういう時代だったんだな」と改めて振り返り、ご覧頂くのもいいかなと考え、1986年から2012年までの日経平均と、為替相場、金利、ニューヨークダウが書いてある資料、それから世界の貿易構造とアジアの貿易構造の資料を持って参りました。

1990年は貿易額もこの程度でしたが、日本の比重は大変大きかったということがわかります。当然、アメリカも（2012年はパーセンテージが出ておりませんし、アジアの貿易構造の資料ですから一概に言えませんが）大変大きい比重を占めていると思いますが、何と云っても中国の存在感の上昇です。

【アジアの貿易構造】の資料の中で（次ページ）、貿易額で輸出、輸入を示した部分をご覧頂きますと、大変な伸びを表しています。この資料のカッコ内は10年前を記載していますが、1990年の中国では2002年の中国と比較して5分の1のGDPでしたが、2012年は日本を追い越して8兆2000万ドルまで伸びています。現時点で日本のGDPは4兆7000億～8000億ドル（ドル換算）まで縮小しています。隔世の感がするといいますか、中国が数字上で大きくなってきたという変化は、世界の経済や貿易、あるいは1人あたりGDPも含めて、1990年からこの10年、20年、あるいは25年を経て激変していることを頭に置いて頂けるとわかりやすいと思います。

一方で、この間日本は「失われた20年」といわれます。おそらくロータリークラブのみなさんですと、諸外国の生活環境や、旅行の際の我々を取り巻く環境や条件を良くご認識だと思いますが、私は色々な人々にお話をする時に、最近「日本ほど『きれい・かわいい・気持ちいい』を極め尽くした国や地域は



ない。『きれい・かわいい・気持ちいい』の上に『安全・快適・コンビニエント』ということをや極め尽くした国はないのではないかと書いています。その象徴的商品がウォシュレット付きのトイレです。個人宅はもちろん、主だった公共の場所でウォシュレット付きトイレが配備されている国はありません。食べるものも、いつからこれほどまでに綺麗好きになったのかと思われるほどで、道路も街も綺麗です。衛生的に抜群です。

私は、ミャンマーにこの3年間で20回近く訪問していますが、アジアの途上国、ベトナム、インドネシアにも行きました。アジア途上国の中で経済発展し、国民が豊かになった象徴が中国ですが、2012年段階で一人あたりGDPは6,078ドルです。日本人の1人あたりGDPが1万ドルに乗ったのは1970年でしたが、その時我々は今の中国と比較し、どれほど洗練された生活をしていたのか。おそらく1970年代は、団体旅行のおじさんたちが腹巻、胴巻きに100万円捻じ込んでヨーロッパに行って、ブランド店やブティックの「この棚のこ

こからここまで全部」と言って響きを買ったということをおぼろげに思い出します。今の中国人観光客の「爆買い」に近いのではないかと見ておられますが、今の貧富の格差といましようか、所得・資産の格差と振舞いは日本とはどこか違うと思います。

●財政赤字、人口減少、エネルギー問題

しかし、現在の日本は三つの問題を抱えています。

一つ目は財政赤字です。「きれい・かわいい・気持ちいい」という世界最高の生活条件や環境が、実は膨大な政府の借金の下に支えられている。後ろを振り返れば「崖っぷち」の財政状況ということが一つ。

二つ目の問題は、人口問題と労働力人口の減少です。依然として改まらない男尊女卑の雰囲気の下にシステムが成り立ち、成功物語の中で変えられなかったというのが大変辛い。そのことが少子化という結果にも大変影響していると思います。さらに労働力人口が大き

く減りつつあります。政府が去年作った資料によれば、日本の労働力人口はこのまま放置すると、2060年には今の6,500万人から2,000万人減る予測になっています。しかも、特殊合計出生率を2.04に戻し、なおかつ男性は70歳まで働き、女性はスウェーデン並に働く、という前提をつけても労働力人口は1,000万人減少します。その中で増えてくるお年寄りを、減った労働力人口で支えなければならないという危機的な状況です。

三つ目の問題は、エネルギーの問題です。エネルギー問題を大胆かつ戦略的に変えていかなければ、いくら稼いでも、稼いでも中東の王様か、アメリカのシェールガス、シェールオイルといったエネルギーを持っているところに貢ぐ格好となります。したがって、原発問題も一度事故を起こすと大変高いエネルギー源になってしまう。

たとえば、原発事故が起こった時に、誰が補償するかということで損害保険会社に「どこか保険契約できる保険会社あるか」と尋ねると、「これに付保できる保険会社はありません」。あるいは付保するのであれば「これくらいの保険料をいただかなくてはいけないということになる」と、とても採算が合わないということで、今度は電力会社が契約できなくなることとなります。もしやるのであれば国家が全責任を持った体制を作らない限り、これはできない。そして原発の再稼働なり、原発を認める路線でも徹底して自然再生エネルギー（エネルギー源がタダのもの、太陽、空気、水から作られるもの、水素ガス発電も含めて）に戦略的に変えていくことにならなければこの国は危ういと思います。

財政破綻でギリシャのようになるか。あるいは少子化で金や投資をすれども投資されたものを動かす人がいないという状況になるか。今、その状況に農業や建設業、介護はなっていますが、辛うじて機械化等の省力化でしのいできたというのがこの20年の歴史です。

2012年正月にニューヨークタイムズで「The Myth of Japan's Failure」という記事が出ました。「日本は『失われた20年』とい

うが、これはワザと作られた神話ではないか」と書いてありました。これは「アメリカのポロポロの空港や道路に比べ、日本ほどどんどん高層ビルが建っている国や地域はない」、あるいは「ミシュランに載せられた料理店はフランスより日本の方が多い」ということを真剣に書いており、日本は「失われた20年」といいながら、アメリカや先進国との貿易的な交渉、1980年代の日米貿易交渉を凌いできたのではないかと指摘されています。

このことと円安・円高問題があり、この【今日お渡しした資料のブルーの太い線】を見て頂くと、これまでの動向に察しがつくのではないかと思います。2000年までの橋本内閣、小淵内閣時代の為替はずっと1ドル=100円を超えていますが、ドーンと為替が1ドル=100円を切るのは、福田内閣、麻生内閣の時代です。「日本は陰謀で成長しなかったのではないか」と言われるくらいです。私はそう思いませんが、成長しないのは人口問題と、日本人独特の内に籠って繊細に磨き上げる、つまり良い意味でも、悪い意味でも値段がつかない値打ちものを作る癖があるから「きれい・かわいい・気持ちいい」ができたと思います。

●政治家の劣化

2013年10月頃にミャンマーに行き、アウンサン・スーチーさんと会談しました。実はテイン・セイン（現ミャンマー大統領）とアウンサン・スーチーと私は学年が同じです。スーチーさんに「あなたは48年間も大変苦勞をした。しかし、反権力、あるいは今の政権はけしからんと言っているも駄目ですよ。私も実は社会人になってから43年間は反権力、反体制で生きてきた。この3年間は与党として、まさにガバナーとして色々考えてきた。反権力だけでは政権取ってから大変なことになりますよ」と言いました。

私もこの間、いろんな情報として聞く場合もありますし、日本国内の選挙も経験して思うことは、「民主主義の矛盾」があると思っ

ています。よく「民意の反映」、「民意の集約」が課題になります。重要な政治の作用や機能は「統合」(Integration)をいかに行うかが、まさに政治の技術であり、アートの部分だと思えます。百家争鳴でワイワイガヤガヤというのは、民主主義でいいことだと思いますが、誰かがどこかの時点で集約しない限り、政治が持つ機能を果たせないと思えます。但し、集約というのは蛮勇を振るって勝手に決めてしまうことではなく、国民が成熟して「統治、ガバナンスとは何か」について考え、どこかの時点での民意を集約することに国民が共同で参画するということできないと統合はできないということになります。

ただ悩ましいのは、その場合、統合をする役割を担う人たちの基礎的な能力です。ヨーロッパなどを見ておきますと、イギリスのオックスブリッジ(オックスフォード大学とケンブリッジ大学の併称)、フランスはENA(フランス国立行政学院)、アメリカはアイビー・リーグ(IVY League)とスタンドフォード大学を出た人たちが競争して磨き上げられていく。また、法律学、経済学、歴史学、そしてできれば美学や哲学という必須の教養を学び、経験していないとトップには立てないということになっています。日本の場合は、竹下登さんまでは創業者で、別に大学で鍛えられたわけではないと思えますが、派閥の中で、あるいは派閥間競争の中で大変なご苦労をされながら、政治家としての力をつけてこられました。それ以降の自民党は、雇われマダムか、二世か世襲の傾向が強い。これでは政治が薄っぺらになってくる。他方、自民党を支えてきた官僚機構も、世間の批判も強く、天下り先もどんどん無くなるということで、最近は官僚機構の中にも腹の座った官僚が少なくなっていますので、どこまで補佐できるのか危ういものがあります。

日本の地方政治をみても、だんだん軽くなっている。これは地方政治を担う議員の質が劣化している。みなさんが尊敬をし、応援したいと考える東京都議会議員や区議会議員といった地方議員がパツと思ひ浮かぶでしょ

うか。つまり、これほど地方議員が軽蔑をされ、物笑いの対象になっているけれども、野放しになっていることによって、今問題の東京国立競技場のようなことが頻々と起こることになるのではないだろうかと感じます。この病気が市議会議員や町議会議員だけであればまだましですが、県議会議員にまで及んできたのが去年の兵庫県の野々村竜太郎県議会議員のレベルになります。これが国会議員にも伝染病のように移ってきているのではないかというのが今の私の懸念です。

結局、国民が政治家を馬鹿にする、物笑いにする、尊敬もしない、名前も知らないというところから、もう一步、地方議員や国会議員を育てる。あるいは、育てる仕組みを作ることを真剣に考えなければ危ういと思えます。政治の場で一度決められると身動きが取れなくなり、決められた方向に向かって動き出さなければならないというのが民主主義であり政治です。本当にとんでもない人に任せた時には任せた方が悪いので、ちゃんと育てて選ぶ、選んで育てるということについて、みなさん思いを致して欲しいと思えます。

みなさんにご紹介したい本があります。松本健一さんが亡くなってから出版された『佐久間象山』(中央公論新社)という本です。これは素晴らしい本です。西洋の近代的な技術、理論、考え方をこんなに早く日本が取り入れることができたのか、取り入れるためにどのような苦労をしたのか。「夷の術をもって夷を制す」という有名な言葉がありますが、西洋の進んだ技術と考え方を「和魂洋才」、「換骨奪胎」して日本人が取り入れ、その術で西洋に対抗するんだと。それなしに攘夷はできない。彼らと戦うためには、彼ら以上の術を持たなければならない。ただし、彼ら以上の武器を持ち、あるいは武器を製造する術を持ち、そのためには今は彼らの術を取り入れるしかないんだ、ということを書いた本です。

ミャンマーで象徴的な話があります。今から90年前の1925年にヤンゴンで環状線が作ら

れました。日本の山手線ができたのも1925年です。今のヤンゴン環状線は、時速20キロくらいでしか走りません。東京の山手線よりも少し距離が長いのですが、一周に約4時間かかります。日本の山手線は一周約60分ほどで走ります。20数駅ある内にターミナルになっていないのは5駅くらいです。あとは縦横無尽に走り、いまや日本は世界一の鉄道国になっています。

この90年間でなぜここまで差がついたのか。比喩的にいうと、保線の労働者の質です。正確に走る仕組みを維持する基盤は保線です。そういう目で見ると日本は、鉄道という保線労働者、中間的労働者が非常にうまく養成されて維持され、その方々の力、日頃は目に見えませんがその力で日本の「きれい・かわいい・気持ちいい」も成り立っているし、日本の産業が付加価値を生み出すことにもなっています。つまり、エリートだけではない世界をなぜ作れたのかというのが、明治以降の日本の指導者、あるいは日本人それぞれのビヘイビアといいましょうか、生活の仕方、教育の仕方され方に一つ秘密があるんだらうなと思います。政治も経営もそうですが、エリートだけを生み出せば何とかなると言う「英雄待望論」ははなはだ間違いではないかということのを常々考えています。



コモンセンスプレス vol.016

2015年8月発行

株式会社コモン・センス

105-0004 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル

402-1

tel. 03-5521-1021

fax. 03-5521-0150